

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



## WEEKLY

なごや  
ちくさ

題字 黒野貞夫

名古屋千種ロータリークラブ

承認 1982年 8月24日

例会日 火曜日 12:30

例会場 愛知厚生年金会館

事務局 ☎763-5110

会長 野村義雄

幹事 深見章

会報委員長 北野寿三郎

No. 26

ROTARIANS-UNITED IN SERVICE  
DEDICATED TO PEACE

ロータリアン——

奉仕に結束 — 平和に献身

1987~88年度 R I 会長 チャールズ・C.ケラー

第270回例会 昭和63年1月19日(火) 晴

### ◇ “奉仕の理想”

#### ◇出席報告

会員 55(54)名 出席 41名  
出席率 75.93%  
前回 1月12日 (修正出席率)96.30%

#### ◇ビジター紹介

大阪池田R C 目黒 正彦君 他8名

#### ◇お誕生日祝福

加藤(敏)君(1/16)、加藤(大)夫人(2/1)

#### ◇ニコボックス

大阪池田R C 目黒 正彦君 始めて御世話になります。

大口 弘和君 この度、初めての訳本が東京クインテッセンス出版社より出版されました。歯槽のうろうの治療に関する歯科の専門書で全408頁の本です。

西村 禎二君、松居 敬二君、竹内 真三君 早退しますのでごめんなさい。

水野 賀統君 大矢さんを紹介させていただきます。

加藤 敏昌君 誕生日祝い。

加藤 大豊君 夫人誕生日祝い。

西村 禎二君、武内 清君 結婚記念日祝い。

#### ◇深見幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催いたしますので、理事役員の方は2F橋の間にお集まり下さい。
2. 次回例会は、4RC合同例会をホテルナゴヤキャッスルにてPM12:30より開催いたしますので、おまらがいのないようお願いいたします。

#### ◇バナー紹介

大阪池田R C 目黒 正彦君

### ◇新入会員紹介



氏名 大矢 佳正 君  
生年月日 昭和12年1月17日  
事業所 大矢建設(株)  
天白区池場1-606  
TEL 803-3111  
地位 代表取締役  
自宅 天白区八事天道526  
TEL 701-6721  
推薦者 水野 賀統  
職業分類 テニスクラブ  
委員会 親睦活動

### ◇感謝状披露

年末会員・家族懇親会で集まった「歳末助け合い募金」を中京テレビ放送の「24時間テレビ愛は地球を救うチャリティーキャンペーン」に寄付したところ、感謝状をいただきましたのでご披露いたします。

### ◇武内副会長挨拶

今年の冬は昨年暮から暖かく昨年に続いての暖冬でございます。毎日を過すには結構なのですが、スキー場、冬物衣料を扱うお店は影響大だと思います。私達テレビ業界にとりましては夏は思いきり暑く、冬は思い切り寒い方がよいというのが定説でございます。処で86年前の明治35年の冬はとりわけ寒い年で丁度この時季、北海道の旭川で日本の史上最低気温氷点下41度という記録が出たそうでございます。史上有名な青森連隊の八甲田山の

遭難はその時起りまして、総員 211 名中 199 名が凍死するという悲惨なことになりました。当時の気象条件が極めて悪かった事に加えて行動の指揮をとりました指揮官の状況判断にも問題があったと言われてます。話は変わりますが、昨年暮縁あって名古屋大学教授の飯田経夫先生と夕食を共にする機会がございました。先生はかねてからかなりはっきりした持論をお持ちの方ですから経済の先行きについてはそれなりの懸念を述べておられました。今年のはたつ年ということもあって変化の激しい年ではないか思われるのでございます。当面景気もよく順調に推移したことは間違いございませんが、長期的にみた場合やはり問題含みと言ってもよいかと思えます。八甲田山の例を持ち出すまでもなく、これからの変化の激しい時代には柔軟な対応が一番大事だと経営の末端につながる者として痛感している次第です。

◇ 講演

“スポーツから見た人間適性”  
— 限界への挑戦 —

名城大学教授学生部長

鈴木 紋吉 氏 (紹介 矢野君)



個人の素質、取りまく環境、指導者の能力の3つの要素が、相互に依存しあって個人を成長発展させる。特に、スポーツを通して有意義な人生を求めるということは、一種のエリート教育と類似し、限界への挑戦である。この場合、究極の目的を達成する厳しさからして、素質の占める比重は大きく、その素質の方向性を見つけ出してやる事が指導者としては大切なことになる。つまり、厳しい挑戦にも堪えられる勝負的要素を持つ者か、これに対して、備わった能力を無理なく開かせてやるべき教育的要素を持つ者かの分類を、指導に当たってはまず考えるべきである。

勝負的要素と教育的要素のものを5つに分類すると次のとおりである。

**Aランク** 異才・天才型であって、そのことに努力しなくても持って生まれた能力で自然にできる。例えば、ジャンプのトレーニングを練習しなくても高くジャンプできるなどである。オリンピック選手などは、その素質の

上に努力を積み重ねている者が多い。

**Bランク** 努力型であって、そのことを達成するために最大のトレーニングに励むものである。どのようにしても目的を達しよう、どうしたらよいかと求め、一生懸命努力する者である。

**Cランク** 平凡型であり、無気力、無関心、無感動といった者が多く、自分の位置づけや、長所すら見つけ出すことのできない者である。

**Dランク** 排他型、破壊型であり、何事もやりたくない、調和したくないので、一言文句を言ったり、反対したり、同類者を誘い出したりする。この型が多いチーム、団体、集団は、破壊されるのである。

**Eランク** 単能型であり、多くのことを期待することは難かしく、1つのことに精進させればよくできる。1つでも長所を引き出し、そのことに早目に取りかかるとよい。スポーツならば、こんな場面に出場してもらおうと前もって言うておけば必ずやれるのである。しかし、突然出場させてもうまくやれない。

このうち、限界へ挑戦できる勝負的要素のものは、Aランク(7%)、Bランク(16%)、Eランク(7%)の合計30%である。これに対して、教育的要素のものは、Cランク(54%)、Dランク(16%)の合計70%であり、これらの者には適性配慮の指導が望ましく、決して無理を強要してはいけない。

また、根性とは、個人の脳から発信する「頑張れ」、「もう駄目だ」の中断命令の早遅によるものである。だから、知的能力のない者は、理解力に乏しく、意欲もなく、集中力、判断力すら乏しいから、科学的、合理的トレーニングを超越した動物的トレーニングにより自分を理由のない世界に追い込むことができない。栄光と屈辱とは紙一重とまで言われる勝負の世界では、無我の境地に達し、理論を越えた、技術の真随による限界への挑戦が大切である。

スポーツを通して、個人の能力を見だし、有意義な人生を送ることができる人は幸せと言えよう。

◇ 1月度理事役員会議題

1. 1988～89年度各委員会委員の件
2. 1987～88年度上半期決算の件
3. 新入会員の件
4. 年末警戒慰問の件  
警察、消防署に慰問金を寄贈した。

◇ 次回例会(1月26日)

- 4 RC合同例会の為、ホテルナゴヤキャッスルに変更となります。

◇ 次々回例会(2月4日)

- 2月2日(火)の例会は職場例会の為、2月4日(木)PM 6:00より松林寺に変更となります。